

ひの 議会だより

No. 80

平成20年11月発行



平成20年10月12日東京都お台場で開催

— 主な内容 —

9月定例会	P 2
19年度決算認定	P 3
一般質問（3人）	P 4~6
条例の制定、一部改正	P 7
行政視察報告	P 8

県の代表として全国消防操法大会に出場。
この大舞台で、練習の成果をいかななく発揮し、優良賞に輝く。

9月定例会

九月定例会は、九月十日から二十五日までの十六日間と会期を定め、平成二十年度一般会計補正予算・特別会計五件、十九年度決算認定、条例の制定・一部改正など十六議案を認定又は原案通り可決。また、意見書五件を提出しました。

赤字を解消

一般会計補正予算

一般会計補正予算は、一億六千三百四十四万七千円を追加し、総額を二十九億七千六百六十万三千円としました。

主なもの

【歳入】

○町税・固定資産税（大規模償却資産）
一千九百十万一千円

○地方交付税
一億二千百三十五万三千円

○県支出金
二百六十万一千円

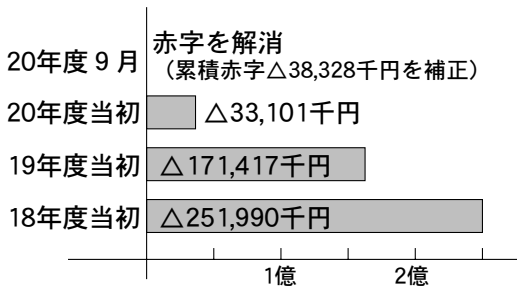
○繰入金（介護特別会計・観光基金）
六百十三万五千円

○前年度繰越金
五千百五十六万二千円

○諸収入（歳入不足分）減額
△三千八百三十二万八千円

これにより歳入不足（赤字）が十八年度より続いていましたが、経費の節減に努め、九月補正予算を持って赤字を解消することができた。

赤字予算の経緯



【歳出】

○財政調整基金積立金
一億一千万円

※財政調整基金の十九年度末現在高
九千九百十七万円

○旧黒坂保育所の解体に係る工事請負費等
一千三百十一万円

○日野病院組合への負担金
二百三十三万一千円

○滝山公園東屋修繕
百万円

○金持札所のトイレ（水洗化）施設整備
五百五十万円

○全国消防操法大会出場に係る費用額及び消防団員作業着の更新
三百十八万一千円

特別会計

(単位：千円)

区分	補正額	総額	歳出の主なもの
国民健康保険	28,210	426,630	老人保健拠出金返還金、突発的な医療費確保
簡易水道	266	107,218	水道技術管理者資格取得講習会
老人保健	25,710	97,060	診療報酬精算による返還金
公共下水道事業	1,131	142,639	終末処理場の修繕料、人件費
介護保険	5,419	589,617	認知症診断測定機器の購入費

○町営バス基金積立金
二百万円

※町営バス基金の十九年度末現在高
五十万円

○副町長を置かない条例に基づく給与等の減額
一千百八十六万九千円

19年度

議会がみた決算

決算審査特別委員会を設置し、慎重に審査を行い、賛成多数で認定しました。

指摘事項

- 収入未済額一般会計一億五百七十五万一千五百五十二円・特別会計二千七百四十二万二千二百九十三円合計未済額は一億三千三百七十三万三千四百四十五円と増大している。返済義務意識の徹底を図り、収納率の向上に努められたい。
- 公共下水道・農業集落排水事業特別会計については、一般会計からの繰入金が減額になるように加入促進に努めること。
- 補助金の使途については、補助事業の主旨と目的を検証して実施すること。
- 金持売店の管理運営については、指定管理者制度が望ましいと思われるので検討されたい。
- 医療・福祉・保健の推進を図るために推進委員制度を創設し「ぼかぼか教室」の普及率向上に努められたい。
- 基本健康診査・人間ドックの受診率向上と未受診者の追跡調査をし、予防医療の必要性と国保会計の健全運営に努めていただきたい。
- 歴史民俗資料館の活用促進を図るため、広く宣伝し、補助金の投資効果の向上に努められたい。

黒字決算
当初予算で一億七千四百四十一万七千円の財源不足額を諸収入に計上したが、決算では一億一千六百五十六万二千円の黒字を計上し、このうち六千五百万円の基金積立ができたことは評価できる。
しかし国の財政健全化判断比率において、実質公債費比率は、国の基準（二五割）を大きく上回る三割となっており、今後も厳しい財政状況が続く事が予想される。

平成19年度一般会計・特別会計6件

収入総額	38億7,770万186円
支出総額	37億6,113万7,882円
差額	1億1,656万2,304円

基金繰入額 6,500万円
20年度繰越金 5,156万2,304円

財政健全化判断比率

	実質公債費比率	将来負担比率
早期健全化基準	25.0%	350.0%
財政再生基準	35.0%	—
日野町	31.0%	236.1%

税金等の年度別滞納状況 (単位：万円)

区分	16年度	17年度	18年度	19年度
一般会計	9,129	9,317	10,044	10,575
主なもの				
住宅新築資金等貸付金	7,467	7,522	7,817	7,846
災害援護資金貸付金	239	532	840	1,205
特別会計	1,890	2,165	2,271	2,740
主なもの				
国民健康保険特別会計	1,813	2,081	2,182	2,491
介護保険特別会計	63	58	58	52
簡易水道特別会計	1	4	8	112
公共下水道事業特別会計	13	22	23	85

討 論

反対 佐々木 求議員
厳しい財政の中で依然として、同和对策予算が支出されている。国民健康保険・介護保険等の弱者に対して、軽減措置をしていない。

賛成 中原 明議員
財政再建への意識改革が進み、経費節減に努められたことが随所に見受けられた。

○ 決算審査特別委員会

- | | |
|------|-------|
| 委員長 | 小谷 博徳 |
| 副委員長 | 中原 明 |
| 委員 | 石田 幹暢 |
| | 竹永 明文 |
| | 佐々木 求 |
| | 宮田 和也 |
| | 松原 直人 |
| | 松本 利秋 |
- (議長、監査委員は除く)

質問

立つ

本町の教育を問う



小谷 博徳議員

生涯教育の減退は

小谷 団塊世代の高齢者数が今後、益々増加の傾向が予想される。生涯教育にどんな方向性を持って、どう取り組んでいくのか具体的に答えていただきたい。

町長 高齢者に対応した生涯学習はおしどり学園、ぼかぼか教室、公民館学習講座などがある。今後は、何歳になっても学習できる場の提供、出かけることのできない方には出前公民館を考えている。

小谷 生涯学習の取り組みでおしどり学園の登録園生が平成十六年は百人以上、それが平成二十年には五十三人と激減の状態である。この急激な減少の分析をしているか。

教育長 激減の分析はできていない。考えられることは高齢化により、出にくい人の増加が考えられる。

今後は地域での生涯学習づくり、出かける公民館、出前学習を考えている。

義務教育の方向性は

小谷 少子化による生徒数の減に対応する具体的なスケジュールができてきているのか。

町長 小学校においては統合を考えず、おのおのの長所、利点を生かした教育、少人数指導、特別支援教育の充実と、小・中学校が交流連携をはかり小中一貫教育を進める。

小谷 二十一年度には日南・江府町が二百人・百五十人規模の小中学校となる。スポーツ面をはじめ、勉学を含め児童の自信と誇りをどう育むのか。

教育長 必要な基礎基本は少人数でもきちんと押さえる。教科と色々な活動については小中合同で学習。二つの学校を存続することにより定数以上の教員数が確保でき、きめ細かい学習指導ができると考えている。

ふるさと学習は

小谷 自分の生まれ育ったふるさとを胸にしっかり刻み込んでおくと、町外で生活しても、必ずふるさと回帰の心が

生まれる。教育委員会主催のふるさと学習に、参加する児童がごく少数だ。学校との連携が不十分ではないか。

教育長 反省する中で先生・保護者に理解を得る。他町と取り組みの違いはあっても、鍛える・体験することに関しては同じねらいがあり、今後検討をしたい。



おしどり学園で学習

議会のうごき

日	内容
7月	
20日	県消防ポンプ操法大会
22日	決算審査
23日	西部広域行政管理組合議会特別委員会 決算審査
24日	議会広報調査特別委員会 決算審査
25日	西部広域行政管理組合議会臨時会
27日	反核平和の火リレーの池マラソン
28日	鳥取県後期高齢者医療広域連合議会臨時会
29日	議会広報調査特別委員会 郡町村議会議員研修会球技大会
31日	決算審査
8月	
6日	決算審査
7日	"
8日	"
11日	例月出納検査
15日	町成人式
18日	決算審査
19日	"



松本 利秋議員

構想を持って まちづくりを

総合計画・自立政策推進 大綱の見直しは

松本 町長は、六月定例会において財政再建にめどがついたので、企画政策課を設け、町のビジョンを策定して、この舵を切られました。

総合計画及び自立政策推進大綱の見直し、策定期間を伺います。

町長 「安心・安全」を基本にまちづくりを進めます。

当面、三年から五年程度の短期的な計画を立てる中で、現状と将来を見据えながら住民の付託に応えたい。

赤字から脱却したとはいえ、多額の借金を抱えており、自立政策推進大綱を柱に、成果に応じて随時見直して、身の丈に合った行政を考えたい。

親子のきずなが大切

松本 生まれてくる子供は、年間二十人程度で、まさに子供は宝です。昨今、学校教育がとやかく言われていますが、親子のきずなを大切に、家庭教育が重要と考えますが、お考えは。

町長 昨今の社会情勢を見ると親子の痛ましい事件が多く、親子のきずなが非常に希薄に

なっていることを物語っています。

子供を対象にした調査で一番多かった回答は「家族みんなで楽しく過ごす」でした。この現実を親として真剣に受けとめ、子供との交わりを持つて子育てをして頂きたい。

特に現代は、家族、地域がそれぞれに関心を持ち、子供にかかわっていくことが非常に大切ではないかと思えます。

地域で支え合う 福祉が大切

松本 高齢化が進んでくれば行政はもちろんのこと、地域の者が支え合う福祉・ボランティアの仕組みをつくるのが重要と考えますが、お考えは。

町長 福祉は、家庭・地域・行政の補完性の原理が必要と考えます。

行政施策、だけでは限界があるので、（隣の人は何をやるぞ）的な考えではなく、積極的に地域に関心を持っていただき、老



図書館活動で本の読み聞かせ

若男女お互いに助け合う共助の精神が肝要です。

地域コミュニティの再構築が必要であると考えます。

松本 村づくりの支援制度とリーダーの育成は。

町長 まず、村づくりを考えているグループを起こしていただき、皆さんと行政が一緒になって考え、行動に移しながら、必要に応じて支援していく、体制をつくる必要があります。

29日	28日	27日	22日	21日	9月	4日	5日	7日	9日	10日	11日	12日	16日	17日	18日	20日	24日	25日	28日	29日				
県議長会役員会	決算審査	全員協議会	日野町江府町日南町衛生施設組合議定例会	日野病院組合議定例会	郡球技大会の反省会	西部町村議会議員研修会 球技大会	議会運営委員会	日野中学校体育祭	例月出納検査	第6回町議定例会	全員協議会	決算審査特別委員会	総務経済常任委員会	教育民生常任委員会	総務経済常任委員会	決算審査特別委員会	第6回町議定例会	教育民生常任委員会	決算審査特別委員会	ひのつこ保育所運動会	決算審査特別委員会	第6回町議定例会	町民運動会	議会広報調査特別委員会

一般質問

3人が立つ

住民参画型の計画を



佐々木 求議員

計画は職員力を高める絶好の機会

佐々木 総合計画の見直しに
関し、その過程をどう考えて
いるのか。

また、計画が先にありきで、
借金をして行くやり方に決別
し、見直しを進めるに当たっ
て、住民の声を反映させるた
めに、どのような場を考えて
いるのか。

さらに計画の見直しは、職
員の能力を高め、生かしてい
く絶好の機会。従来になかっ
た体制も必要だ。

職員はやる気を引き出すた
めにも、「強い思い」を持つ
人を積極的に計画見直し登用
し検討を深め、住民の声を
できるだけ反映していかなく
ばならない。

そのためには、担当課だけ
では不十分であり、どう各課
と連携していくかが課題であ
る。

町長 町政に明るい兆しが見
えはじめたことを確信。財政
再建一辺倒ではなく、住民と
共に、「安全・安心なまちづ
くり」を基本に元気の出るま
ちづくりを推進していきたい。
そのため、専門的に考える
課が必要と思いい企画政策課を
設置しました。

深刻な滞納世帯一割にどう対応

できるだけ町内
に出かけて、住民
の声を聞くよう努
めたい。また、意
見をお持ちの方は、
公の場で発言して
もらい、特定者に
偏らない行政を進
めていきたいと考
えます。

佐々木 標準財政
規模が約二十一億
円の一般会計で、
一億の滞納。特別
会計を合わせると
一億三千万円を越
えている。

一年で一千万円増加し、戸
数で百八十八戸。全世帯の一
割以上が何らかの滞納がある
という状況をどう検討し、分
析されているのか。

全町民的な課題として、情
報公開し、改善を呼びかけて
積極的に手を打つべきではな
いか。

町長 滞納金が増えていくこ
とは由々しきことで、背景を
分析している。
町政の大きな課題なので、
住民各位に情報はできる限り



まちづくり説明会で町民と対話

公表。皆さんの力を借りなが
ら問題解決を図りたい。
個々の状況等も調査し、償
還計画も個別に立て、どこに
問題があるのか、膝詰めで話
をしていきたい。

税金等の滞納は、町財政を
圧迫し、不足分は他の住民に
等しく負担を強いることにな
るので、それを個々に借りた
ものはきちんと返していただ
くという基本理念に基づいて
行動をしたい。

次回の定例会は12月です。
傍聴にお出かけください。
議会事務局 72-0335

陳情審査結果

件名	陳情者	審査結果
下菅地区農道を町道編入について陳情	日野町下菅自治会下菅区 会長兼区長 山形 修 他一名	採 択
地方財政の充実・強化を求める陳情	自治労鳥取県本部 執行委員長 澤田陽子	採 択
地域医療を守るための財源確保と人材確保に向けた支援を求める陳情	自治労鳥取県本部 執行委員長 澤田陽子	採 択
食糧自給率向上、地域農畜産業の確立 稲作、酪農、畜産危機に関する陳情書	全日本農民組合鳥取県連合会 会長 鎌谷廣治 他二名	採 択
2009年度国家予算編成において、教育予算拡充を求める陳情書	鳥取県教職員組合西部支部 支部長 金森 誠	採 択
後期高齢者医療制度の廃止の意見書採択を求める陳情書	自治労連鳥取県本部 執行委員長 植谷和則	趣旨採択
後期高齢者医療制度の廃止に関する陳情	全日本年金者組合鳥取県西部支部 支部長 増田修治	趣旨採択

意見書を提出しました

◎下菅地区農道を町道へ編入についての意見書

これまで、農道を町道に編入した際に問題が生じた事例があったので、下記事項について、地元関係者と十分な協議を行い対応すること。
一、農道には私有地が含まれており、町道編入の際、所有権移転等、将来に問題が残らないようにすること。

提出先 日野町長

◎地方財政の充実・強化を求める意見書

◎食糧自給率向上、地域農畜産業の確立、稲作、酪農、畜産危機に関する意見書

◎地域医療を守るための財源確保と人材確保に向けた支援を求める意見書

◎2009年度国家予算編成について、教育予算拡充を求める意見書

提出先 内閣総理大臣、衆参両院議長
各関係大臣

条例の制定・一部改正

◎日野町に副町長を置かない条例の制定
当分の間、日野町に副町長を置かない条例を制定するもの

◎日野町議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の制定
地方自治法の改正に伴い条例を全部改正するもの

◎日野町認可地縁団体印鑑条例の一部改正
地方自治法の改正に伴い条例を一部改正するもの

◎日野町営住宅設置・日野町小集落改良住宅・日野町特定公共賃貸住宅の設置及び各住宅の管理に関する条例の一部改正
公営住宅における暴力団排除について、条例で規定を設けるもの

規則の一部改正

◎日野町議会会議規則の一部改正
地方自治法の一部改正に伴い、「議会は、会議規則の定めるところにより、議案の審査又は議会の運営に関し協議又は調整を行うための場を設けることができる」との規定を設けられたので、全員協議会を会議規則に規定するもの。

日野郡町村議会議員研修会

七月二十九日、日南町で第八回研修会が開催され郡内三町の議員が参集しました。

株式会社オロチ社長森英樹氏を講師に「地域も動く山を動かす」と題して集材の製造・販売等について研修しました。

この会社は、日野郡日南町下石見「日

野川の森林（もり）木材団地」として、平成十九年一月十二日に設立されました。スギの間伐材や、製材不適材をまるごと加工し、製品にするものです。

これまで利用されていなかった、森林資源を有効に活用するもので、地域振興に期待されています。

西部町村議会議員研修会



九月四日、本町で開催されました。研修会に先だって、自治功労者表彰式が行われ、町村議会議員として通算十一年以上在職し功労のあった者として、本町から佐々木求議員が表彰されました。

研修会では「これからの家庭教育・学校教育のあり方」と

題して、兵庫教育大学学長梶田叡一氏から責任ある親・教師・地域住民としての講演を聴きました。

又、中央教育審議会副会長、鳥取県政顧問として、取り組まれている課題などについても聴くことができ、非常に意義深い研修会でした。

あとがき

平成十九年度決算は黒字となりましたが、実質公債費比率は三一割と高く全国四位の数字であり、予断を許さない状況です。

今後も行政・議会・住民が一体となって財政再建に取り組んでいくことが、必要不可欠です。▼十月十二日東京都で開催された、第二十一回全国消防操法大会（小型ポンプの部）で、本町の消防団が優良賞に輝き、誠に喜ばしいことであり健闘を称えたいと思います。

委員長 佐々木 周子

議会広報調査特別委員会

委員長 佐々木 周子

副委員長 松本 利秋

委員 佐々木 求

委員 小谷 博徳

委員 松原 直人

自立したまちづくりを研修

島根県隠岐郡海士町で七月十日・十一日

総務経済常任委員会



自立のまちづくりについて説明を聞く

「自立（律）のまちづくり、地場産業、特産物振興について」海士町の副町長、総務課長の説明を受けました。

昭和二十五年頃には七千人近くの人口も平成十七年には二千五百八十一人、高齢化率三九割に。高卒の殆どが島外へ流出、生まれる子供は年十数人という、超過疎化・超少子高齢化・超財政悪化で島が消えるという中で単独町政で自立の道を選択。住民代表と町議会と行政が、島の生き残

りをかけた「海士町自立促進プラン」を策定（平成十六年三月）。新たな産業創出を推進する計画を立て取り組みを強めているものです。

単独自立の要となる行財政改革の推進には市民代表を含めた委員会を設置し、三役・職員などの大幅な給与カット（五〇割〜二二割）を実現、それに伴う早期退職支援措置も併せて行い、平成十七年度は黒字決算とするなど、実績として表れていました。

新たな産業創出では、マスコミでも取りあげられて有名になっていく、隠岐牛（黒毛和牛）の生産を中心に行っていました。

地元建設業飯古建設が副業

として平成十六年一月に設立した、有限会社隠岐潮風ファームが繁殖牛百頭、肥育牛二百五十頭、飼料作物六畝、堆肥製造六百トで事業展開しているものです。

「地域再生計画」では、三本柱（人づくり、モノづくり、健康づくり）を立て、あらゆる支援措置も活用し、自然環境を活かした先駆的な、産業興しに取り組みられています。

（島じゃ常識！さざえカレイなど）



黒毛和牛の放牧